

い ふ ゆー はか
伊波普猷ぬ墓

2007 年 11 月
沖繩語研究家
船津好明

い ふ ゆー んかし うちなー かか いるいる しみはじ
伊波普猷や昔、沖繩んかい係わゆる色々な墨始みた
るっ人^{ちゅ}どっし、音^{うど}打^うっちょーいびーん。うん人^{ちゅ}ぬ^{はか}墓^ぬ
浦添城跡^{うらしーぐしくあと}ぬ^{なーか}中^なんかいあいびーん。城跡^{ぐしくあと}んかい入^いーる
所^{どくる}んかえー車^{くるま}置^まちゆる庭^なぬあいびーしが、んまから
中^なんかい向^んかて^{あつ}歩^みちゆる道^{みちなか}中^なをて、右^{にじり}むてぬい^{くだ}ぬ一^く下^た
とーる所^{どくる}ぬ^{やま}山^なぬ中^なんかいあいびーん。墓^{はか}んかい降^うりー
る道^{みち}ぬ^わ分^わかりとーる所^{どくる}んかい札^{ふだ}ぬ立^たてらっどーいびー
しが、うりんかえー墓^{はか}に付^ちて^か書^かかっどーいびーん。言^{くど}
ば^ば葉^はー沖繩^{うちな}口^{ぐちえ}ーあらん、大和^{やまと}口^{ぐち}っし書^かかっどーいびーし
が、我^わーが^わ沖繩^{うちな}口^{ぐち}んかい直^のしーねー、大概^て下^げぬ^し如^ち成^やい
びーん。

『 い ふ ゆー はか
伊波普猷ぬ墓

い ふ ゆー めーぢ く にん^なー^ふん をて^ん 生ま^んりやびたん。沖繩尋^{おきなわじん}
常^{じょ}中^{ちゅ}学^{がく} (首^{しゅ}里^り高^こ校^こ成^ないる前^めぬ^が学^ご校^や) 辞^やみらさつて、う
ぬ^{あと}後^{やまと}ー大^ん和^{さん}ん^こかい^{あと}行^{きよ}じ、三^と高^{だい}(後^がぬ^く京^と都^{きよ}大^と学^{きよ}) から東京^と

てーこくだいがく い くどば がくむんびんちよー とーだい
帝国大学んかい入っち、言葉ぬ学問勉強さびたん。東大

んかい居たる頃から、浦添ぬ首里やかにん前に沖縄ぬ

みやく 都やたんで言る事初みて書ちあらわ うらそえこー ぐと
都やたんで言る事初みて書ちあらわ「浦添考」ぬ如

ーる優りとーるかんげ か まど ゆ なか へん
ーる優りとーる考ー書ち纏みやーに、世ぬ中んかい出
じゃちょーいびーん。

うちなー けー い けんりつ と しょかんちよー な れきし
沖縄んかい帰てから、伊波ー県立図書館長成て、歴史

けんきゅー うちなー にかしえ ちゃ くどしら
研究、沖縄ぬ昔ー如何ーやたがんで言る事調べやが

ちーなー、はいばん あとやまど う
ちーなー、廃藩ぬ後大和から押せーらつて、ちるだいそ

ーるうちなー ちゅ ちゃー ど むど
ーる沖縄ぬっ人ぬ達んかいいじり取り戻しえーやーん

で、うぬ かんげ する たいしよーじゅーゆにん ちゅけーん
で、うぬ考ー広みやびたん。大正14年、なー一回

とーちよー い いくさ
東京んかい行ちゃびたしが、戦っしアメリカんかいさ

ったるうちなー かい い うちなー
ったる沖縄や、まーかい行ちゆがやーんで言ち、沖縄ぬ

あとあと くどし わ とーちよー
後々ぬ事心配さがちーなー、東京をてまーさびたん。

うぬ あと い けんきゅー かか ふか うらしー はか
うぬ後、伊波ぬ研究と関わいぬ深さたる浦添んかい墓

ぬ ちゅく ほーむ
ぬ作らつて、んまんかい葬らつとーいびーん。

うらそえしきよーいくいいんかい
浦添市教育委員会』

ぐすーよー うらしーぐしくあと ふだ
御衆様ん、浦添城跡んかいめんしえーいねー、くぬ札

みか
う見掛きみそーり。

い ぶゆー う しみ がくむん
伊波普猷ぬ起くちやる墨・学問でしえー、うりまでー

あんすか^し知らりらんたる^{うちな}沖縄^{れきし}ぬ歴史、^{みんぞく}民俗、^{ぶんがく}文学んでー、
御^う万^{まん}衆^{ちゆ}んかい^{わか}解^{たみ}らする^{まど}為^ななかい纏^{まど}みたるむんやいびー
ん。^{れきし}歴史んでしえー、^{んかし}昔、^{いち}何時、^ま何処^ををて、^{ちや}如何^よぬ様^なな
^{くど}事ぬ^うあ^{くた}がんで^ゆ言^{くど}る^{わか}事、^{むん}解^らする^{むん}物^やいびー
ん。^{みんぞく}民俗んでしえー、^{んかし}昔^{なげ}から^{ちぢ}長^{ちぢ}一^{ちぢ}続^{ちぢ}ちよー^{いる}る^{いる}色^な々な^{なれ}習^えー
ぬ^{くど}事^{ぶんがく}やいびーん。^{ぶんがく}文学んでしえー、「^うむる^そ御^し草^し紙^{くど}」ぬ^{くど}事^{くど}
やいびーん。^{れきし}歴史、^{みんぞく}民俗、^{ぶんがく}文学んでー^うさ^ちー^{やま}ち、^と大^{ぐち}和^{ぐち}口^{ぐち}
っしえー「^{おきな}沖縄^{がく}学^{がく}」んで^い言^いちよーいびーん。

^{はか}墓^{やま}ー^な山^なぬ^な中^なんかい^なあいびーしが、^{やま}くぬ^{やま}山^{やま}んでしえー
^{たか}高^ばさる^そ場^そ所^そー^きあい^きび^きらん。^き木^きぬ^きふ^きち^きゃ^きー^とー^とる^とる^と所^とぬ^と
^{ちむえ}肝^{ちむえ}合^{ちむえ}やいびーん。^{はか}墓^めぬ^め前^めんか^めえ^めー^く小^くさる^く庭^なぬ^なあ^なて、^なん^なま^な
んか^いえ^いー^いし^い石^いぬ^い碑^いぬ^い立^いっ^いち^いよ^いー^いび^いーん。^うり^うん^うか^うえ^うー
「^と頭^と彰^と碑^と お^とも^とろ^とと^と沖^と繩^と学^との^と父^と 伊^と波^と普^と猷^と」んで^ふ彫^ふら^ふ
っ^とー^いび^いーん。^うぬ^ま周^まい^まん^まかい^ま小^くさる^く字^じさ^じー^に立^り派^りな^り
^{はたら}働^{くど}ち^ふぬ^ふ事^ふん^ふ彫^ふら^ふっ^とー^いび^いーん。^あん^あし、^{はか}墓^いんで^い言^いち
ん^{はか}墓^なび^なけ^なー^のー^あらん、^な庭^なと^な碑^なぬ^なあい^なび^なー^くど、^なん^なま^なー
「^い伊^い波^い霊^い園^い」で^い言^いら^いっ^とー^いび^いーん。

^わ我^わん^わね^わー^{うち}沖^な繩^なん^なかい^な行^なじ、^まま^まど^まぬ^まあい^まね^まー^んま^んん^んかい

をが 拝みーが^い行^いち^いゃ^いびーん。2006年9月^{にしんるくにんくんぶち}に行^んじ^んゃ^んる^ん時^んねー、

ん^{たー}まー誰^ん頓^ん着^んし^{えー}えーを^らん^{ねー}さ^びた^{ん。}碑^んか

い^か書^ちえーる^{じー}字^{や、}ぬーり^ぬ這^て読^み苦^さい^{びー}た^{ん。}

は^か墓^んか^{えー}捨^てら^{った}る^{ビン、}缶[、]紙^んで^ーぬ^ち散^らか^{て、}

は^{ごー}さ^いび^ーた^{ん。}我^んね^ーう^り拾^て袋^んか^い入^り

や^ーに、ん^まか^ら持^っち^{けー}帰^やび^たん。

伊^い波^な靈^{れー}園^{えん}守^{まむ}え^ー誰^{たー}や^みし^{えー}が^やー^んで^考ー^て見^じ

ー^{ねー}、立^た札^てん^かい^か書^ちえ^ーる^浦添^そ市^え教^き育^{ょー}委^い員^い会^んか^いや^る

如^ぐー^とい^びー^{ん。}あ^んし、碑^んぬ^字隠^ちょ^ーる^ぬー^り取^て退^ぬ

き^りわ^ど益^まし^やい^びー^しが、役^{やく}所^そー^い忙^いさ^があ^{ら、}思^う寄^み

ら^んが^あら、う^ぬま^ま成^なと^ーい^びー^たん。む^しボ^ラン^テ

ィ^アぬ^ち肝^つし^ど胸^{かん}考^げー^っし^そ掃^じ除^しー^ねー、碑^ん壊^ちえ^ー大

事^じ成^ない^びー^{ん。}碑^んや、清^ちら^くす^んで^言し^やか^{ー、}書^かち^え

ー^る字^じぬ^ゆ読^{まり}ー^る如^ぐす^しど^大切^てや^いび^ーる。霊^{れー}園^{えん}守^{まむ}と

ー^る浦^う添^ら市^そ教^き育^{ょー}委^い員^い会^んか^いー、く^ぬ事^く御^ど考^うー^みし^えー^しえ

ー^ま益^しん^で思^うや^びー^{ん。}

い ぶわ ぶ ゆー はか
伊波普猷ぬ墓

2007 年 11 月

沖繩語研究家

船津好明

い ぶわ ぶ ゆー んかし うちなー かか いるいる しみはじ
伊波普猷や昔、沖繩んかい係わゆる色々な墨始みた
るっ人とうっし、音打っちょーいびーん。うん人ぬ墓ぬ
うらしーぐしくあとう なーか ぐしくあとう い
浦添城跡ぬ中んかいあいびーん。城跡んかい入ー
る所んかえーくるまうちゆる庭ぬあいびーしが、んまか
ら中んかい向かてい歩ちゆる道中をうてい、右むてい
ぬいふえーくだとーる所ぬ山ぬ中んかいあいびーん。
はか ー う みち わ とーる所んかい札ぬ立
墓んかい降りーる道ぬ分かりとーる所んかい
ていらっとーいびーしが、うりんかえー墓に付ーてい書
かっとーいびーん。くとうば うちなーぐちえ やまとうぐち
し書かっとーいびーしが、我ーが沖繩口んかい直しーね
ー、てーげーしちや ぐとうな
大概下ぬ如成いびーん。

い ぶわ ぶ ゆー はか
『伊波普猷ぬ墓』

い ぶわ ぶ ゆー めーぢく にんなーぶわ
伊波普猷や、明治9年那覇をうてい生まりやびたん。
おきなわじんじょーちゅーがく しゅりこーこーな めー がっこー や
沖繩尋常中学(首里高校成いる前ぬ学校)辞みらさっ
てい、うぬあと やまとう さんこー あとう きょーと だいがく
てい、うぬ後ー大和んかい行じ、三高(後ぬ京都大学)

から東京帝国大学んかい入っち、言葉ぬ学問勉強さ
びたん。東大んかい居たる頃から、浦添ぬ首里やかにん
前に沖縄ぬ都やたんでい言る事初みてい書ち表ちや
る「浦添考」ぬ如ーる優りとーる考ー書ち纏みやーに、
世ぬ中んかい出じゃちょーいびーん。

沖縄んかい帰ていから、伊波ー県立図書館長成てい、
歴史研究、沖縄ぬ昔ー如何ーやたがんでい言る事調べ
やがちーなー、廃藩ぬ後大和から押せーらってい、ち
るだいそーる沖縄ぬっ人ぬ達んかいいじり取り戻し
えーやーんでい、うぬ考ー広みやびたん。大正14年、
なー一回東京んかい行ちゃびたしが、戦っしアメリ
カンかいさったる沖縄や、まーかい行ちゅがやーんでい
言ち、沖縄ぬ後々ぬ事心配さがちーなー、東京をう
ていまーさびたん。うぬ後、伊波ぬ研究とう関わいぬ
深さたる浦添んかい墓ぬ作らってい、んまんかい葬ら
っとーいびーん。

浦添市教育委員会』

御衆様ん、浦添城跡んかいめんしえーいねー、くぬ
札う見掛きみそーり。

い ぶわ ぶ ゆー う し み が く む ん
伊波普猷ぬ 起くちやる 墨・学問でいしえー、うりまで
ー あんすか 知らりらんたる うちなー れきし みんぞく ぶんがく
ー、御万衆んかい 解らす 為なかい 纏みたる むんやい
びーん。れきし ンでいしえー、んかし いち まー
如何ぬ 様な 事ぬ あたが、起くたがんでい 言る 事、解ら
する 物やいびーん。みんぞく ンでいしえー、んかし なげ ちぢ
よー いるいる なれ くと う ぶんがく
る 色々な 習ぬ 事やいびーん。文学んでいしえー、
「うむる 御草紙」ぬ 事やいびーん。れきし みんぞく ぶんがく
でーうさーち、やまとうぐち おきなわがく ンでい 言ちよ
ーいびーん。

はか やま なーか やま
墓ー山ぬ 中んかい あいびーしが、くぬ 山んでいしえ
ー たか ばそ きー とうくる
高さを 場所ー あいびらん。木ぬ ぶちやーとーる 所ぬ
ちむえー はか めー くー なー
肝合やいびーん。墓ぬ 前んかえー 小さを 庭ぬ あてい、ん
まんかえー いし ぶいー た
まんかえー 石ぬ 碑ぬ 立っちょーいびーん。うりんかえ
ー 「顕彰碑 おもろと 沖縄学の父 伊波普猷」んでい 彫
らっとーいびーん。うぬ まー くー じー りっぱ
な 働ちぬ 事ん 彫らっとーいびーん。あんし、はか
言ちん 墓びけーのーあらん、なー ぶいー
う、んまー 「伊波霊園」でい 言らっとーいびーん。

わ 我んねー うちなー かん 沖繩んかい行じ、まどうぬあいねーんまんか
い ほうが がい にしんるくにんくんぐわち かん とうち
い 拝みーが行ちゃびーん。2006年9月に行じやる時
ねー、んまー たー とうんぢやく
誰ん頓着んしえーをうらんねーさびたん。
ふいー か じー ほー ゆみ ぐり
碑んかい書ちえーる字や、ぬーりぬ這てい読み苦さい
びーたん。はか し かん かび
墓んかえー捨ていらったるピン、缶、紙んで
ぬち ち
散らかてい、はごーさいびーたん。我んねーうり ふうつ
てい ふくる い む けー
袋んかい入りやーに、んまから持ち帰やびたん。
い ふわれーえんまむ たー かんげ
伊波霊園守えー誰やみしえーがやーんでい考ーてい
んー たていふだ か うらそえし きょーいく いんかい
見じーねー、立札んかい書ちえーる浦添市教育委員会
やる ぐと ふいー じーくわつくわ
如ーいびーん。あんし、碑ぬ字 隠 ちょーるぬー
り とう め ま やくそ いちゆな
取てい退きりわどう益しやいびーしが、役所ー忙 さま
があら、うみゆ らんがあら、うぬまま 成とーいびーたん。
むしボランティアぬ ちむ ちゆ どうーかんげ そーじ
ぬ肝っし人ぬ 胴考ーっし掃除しー
ねー、ふいーくー でーじ な ふいー ちゆ
碑壊ちえー大事成いびーん。碑や、清らくすん
でい けい かの じー ゆ ぐとう
言しやかー、書ちえーる字ぬ読まりーる如すしど
う てーしち れーえんまむ うらそえし きょーいく いんかえ
う大切やいびーる。霊園守とーる浦添市教育委員会ー、
く ぐとう う かんげ ま うむ
ぬ事御考ーみしえーしえー益しんでい思やびーん。

沖縄文字一覧と用例

<p>と [tu] とい (鳥)、うと (音)、 みーと (夫婦)</p>	<p>𑄎 [hwe] 𑄎ー (南)、に𑄎ーでー びる (有難うございます)</p>
<p>と [to] とーふ (豆腐)、とーば る (桃原)</p>	<p>へ [he] へい (おい「目下への 呼びかけ」)</p>
<p>ど [du] どし (友人)、やど (宿)、どー (自分)</p>	<p>や [ʔja]* やー (君、お前)、や ん (言わない)</p>
<p>ど [do] どーぐ (道具)、まん どーん (たくさんある)</p>	<p>や [ˈja] やー (家)、やん (で ある)</p>
<p>て [ti] てーち (一つ)、てーだ (太陽)、てん (空)</p>	<p>ゆ [ʔju]* ゆん (言う)</p> <p>ゆ [ˈju] ゆんたく (おしゃべ り)</p>
<p>て [te] てーく (太鼓)、てーし ち (大切)</p>	<p>よ [ʔjo]* よーいー (おさな子)</p> <p>よ [ˈjo] よーんなー (ゆっく り)</p>
<p>て [di] ふて (筆)、ぬーてー (喉)、てきやー (秀才)</p> <p>で [de] でーじ (大変なこと)、 ちょーでー (兄弟)</p>	<p>か [kwa] かじ (火事)、かっちー (ごちそう)</p>
<p>か [ka] かじ (風)、かんない (雷)、かーま (遠方)</p>	<p>わ [ʔwa]* わー (豚)、わーちち (天気)</p> <p>わ [ˈwa] わーむん (私のもの)</p>
<p>か [gwa] にんごん (念願)、ごん く (頑固)</p>	<p>わ [ʔwi]* わー (上)、わーりき さん (面白い)</p>
<p>が [ga] がんちょー (眼鏡、め がね)、しがた (姿)</p>	<p>み [ˈwi] ゐきが (男)、ゐなぐ (女)</p>

く [kwi] くー (声)、さっくー (咳)、くゆん (呉れる)	ゑ [?we] * ゑーきー (金持ち)、 ゑんちゆ (ねずみ)
き [ki] きー (木)、きゆん (蹴 る)、きぶし (煙)	ゑ [?we] ういゑー (お祝)、わ じゃゑー (災い)
ぐ [gwi] ぐーく (越来「地名」)	ん [?N] * んみ (梅)、んに (稲)、んなじ (うなぎ)
ぎ [gi] かーぎ (容ぼう)	ん [?N] んに (胸)、んみ (嶺 井「地名」)、んなど (港)
ぐ [kwe] ぐー (鋏)、からじぐー (髪きり虫)	い [?i] * いん (縁)、いだ (枝)
け [ke] けー (かゆ)、ちけー (使者)	い [?i] いん (犬)、いーび (指)、いちゆん (行く)
ぐ [gwe] ぐったい (ぬかるみ)	を [?u] * をど (夫)、をーじ (さ とうきび)
げ [ge] げー (害)、にげー (願 い)	う [?u] うど (音)、うーび (帯)
ぐ [hwa] ぐー (葉)、なーぐ (那 覇)	え [?e] * えーま (八重山)、え ーじ (八重洲)
は [ha] はる (畑)、はぎもー (荒地)	え [?e] えーさち (あいさ つ)、えーじ (合図)
ぐ [hwi] ぐじゃい (左)、ぐーど (いるか)	お [?o] おーじ (扇)、おー さん (青い)
ひ [hi] ひやみかすん (えい、 と言う)	を [?o] をーじ (王子)、をー れー (往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

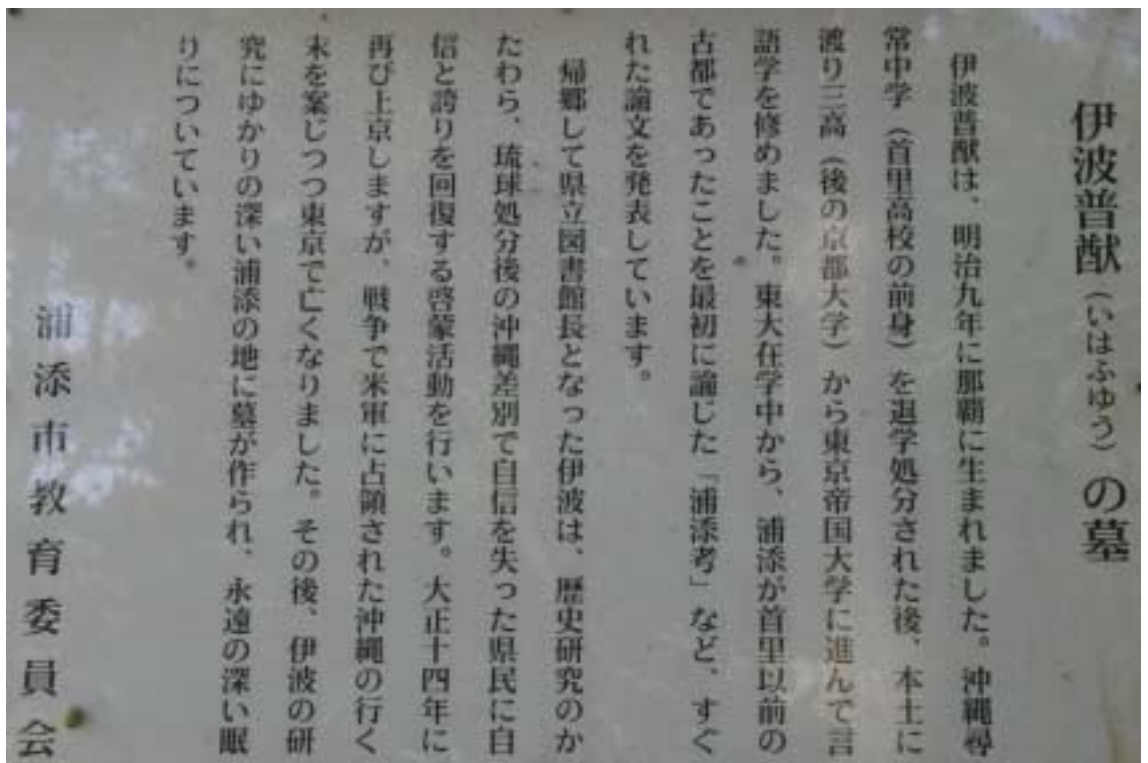
例 どい (鳥)、×どい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。

伊波普猷の墓

2007年11月
 沖縄語研究家
 船津好明

伊波普猷は昔、沖縄に関係する色々な学問を始めた人として有名です。その墓が浦添城跡の中にあります。城跡の入り口に駐車場がありますが、そこから中に向かって歩く途中の、右側の少し下がった山の中にあります。墓へ下る道の分かれるところに立て札があり、それには墓のことが書いてあります。言葉は沖縄語ではなく、共通語ですが、私が沖縄語に直すと、大体次のようになるでしょう。(沖縄語は1頁、5頁の下方にあります。次は立て札の実物写真です。)



(白っぽい部分は木漏れ日が当たったところ)

皆さんも浦添城跡に行くときは、この札をご覧下さい。伊波普猷が始めた学問というのは、それまであまり知られていなかった沖縄の歴史、民俗、文学などを、多くの人々に知ってもらうために纏めたものです。歴史というのは、

過去、いつ、どこで、どんな事があったのか、起きたのかを解ってもらうことです。民俗というのは、昔から長い間続いている色々な習慣のことです。文学というのは「おもろさうし」のことです。これらを合わせて、共通語では「沖縄学」といっています。

墓は山の中にあります。この山というのは高いところではなく、木が茂っているところのことです。墓の前には狭い庭があって、そこには石碑が建っています。それには「顕彰碑 おもろと沖縄学の父 伊波普猷」と彫られています。その周りには小さい字で功績が刻まれています。それで、墓といっても墓だけではなく、庭と碑もあるので、そこは「伊波霊園」と言われています。

私は沖縄に行くと時間があるときは、そこを参拝します。2006年9月に行ったときは、そこは誰も面倒を見ていないようでした。碑は苔がむして、字は読みにくい状態でした。墓にはビン、缶、紙などが散乱し、穢いものでした。私はそれを拾って袋に入れて持ち帰りました。

伊波霊園を管理している人は誰かと思うと、立て札に書いてある浦添市教育委員会です。それで、碑の字を見えなくしている苔を取り除いてほしいのですが、役所は忙しいのか、気が付かないのか、そのままです。もしボランティアのつもりで人が勝手にすると、碑を傷めては大変です。碑は、綺麗にするというよりは、字を読めるようにする方が大切です。管理者である浦添市教育委員会には、この点のご配慮をお願いしたいものです。

〒1870002

東京都小平市花小金井 2-6-1

船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp